

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	身体文化コミュニケーション特論		
英文授業科目名	Topics on Communication of Physical Culture		
開講年度	2008年度	開講年次	
開講学期	後学期	開講コース・課程	博士前期・後期課程
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	電気通信学研究科-人間コミュニケーション学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学専攻		
担当教官名	深澤 浩洋		
居室	東1-409		

公開E-Mail	授業関連Webページ
fukasawa@hc.uec.ac.jp	なし

【主題および達成目標】
<p>価値情報としての文化、特に表現（コミュニケーションパターン）を内在する身体文化（スポーツを含む）に注目し、その情報特性（コード・規範）やコミュニケーション特性（伝達・継承）、形成されるコミュニティ特性（結合）について検証する。加えて、コミュニケーションツールの進展が身体文化のこれらの特性に与える影響、さらには新しい身体文化形成プロセスなど社会コミュニケーション学の新たな可能性を展開する。</p> <p>単に言語によるコミュニケーションのみならず、より包括的な視座から人間コミュニケーションに対する理解を深めることを目指す。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
特になし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
身体文化コミュニケーション論

【教科書等】
<p>参考書</p> <p>Mead, G.H. (1967) Mind, Self & Society. The University of Chicago Press</p> <p>ブレイク, A. (2001) 「ボディ・ランゲージ-現代スポーツ文化論」日本エディタースクール</p> <p>アイヒベルク, H. (1997) 「身体文化のイマジネーション」新評論</p> <p>ハーグリーヴズ, J. (1993) 「スポーツ・権力・文化」不昧堂</p> <p>ブルデュー, P. (1988, 1990) 「実践感覚1・2」みすず書房</p>

【授業内容とその進め方】

スポーツに代表される身体文化におけるコミュニケーションを理解する上での基本的な枠組みを確認する。次いで、コミュニケーションの構造や形式、コミュニケーションが発生する三つの水準を提示し、それぞれの水準に立ち顕れる身体文化の様相について具体的事例と共に概説する。また、受講者に対しては、関連テーマを扱っている文献を選び、その内容に関するプレゼンテーションを求める。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 コミュニケーション理論における身体文化の位置
- 第3回 身体の社会的基盤性
- 第4回 身振り媒介的相互作用
- 第5回 運動と遊びのコミュニケーション
- 第6回 記号媒介的相互作用
- 第7回 コミュニケーションコードとしてのスポーツ・ルール
- 第8回 メディア媒介的相互作用
- 第9回 身体文化における表現の可能性
- 第10回 スポーツの社会的機能
- 第11回 ダンス・舞踊の歴史的変遷
- 第12回 プレゼンテーション
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 まとめ

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

出席、プレゼンテーションおよび質疑(60点)、レポート(40点)で総合的に評価する。
出席については、4回以上欠席すると評価対象とはならない。
専門外の者に対してもコミュニケーションを駆使して理解してもらうことができる、レポートでは論理的な記述が展開され、自分自身のオリジナルな見解とそれ以外の見解との区別を示すことができることを最低達成基準とする。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等がある場合はメールで問い合わせること。

【学生へのメッセージ】

ヴァーチャルなコミュニケーションがいかにリアルなコミュニケーションとつながっているかを考えながら参加するとよいでしょう。

【その他】

なし